

## 「悪魔に対する戦い」

エペソ人への手紙 6 : 10 - 13

October.19.2025

### エペソ人への手紙 6 : 10 - 13 (パウロ)

#### Preface

4年ほどかかってしまいましたが、遂に、エペソ人への手紙の結論部分に至りました。

今読みましたエペソ書 6 : 10 以降の内容は、ある意味、エペソ書の頂上のような部分・内容とも言えるかもしれません。

なぜなら、イエス・キリストに出会う・神を信じる・神を知るということは、それまで戦う相手を間違っ生きて来たということに気付くこと、戦う必要のないもの、戦う相手ではないものを戦う対象として見、生きて来たということに気付くことでもあるからです。

目に見えている人や物や事が戦う相手ではなく、目に見えることはほとんどないかもしれないけれども確かに存在し、神に敵対することをその生業とし、唯一神の似姿に創造された人という存在を攻撃することが最も神を悲しませることを知っている輩、まことの神を知らない暗闇の世界に人を閉じ込めておこうとするこの世の神、この世の流れや道を作り出し、人をそのまことの神なき雰囲気・空気感に留め続けようと狡猾に立ち回っている悪魔悪霊との戦いこそが、三位一体なる神を信じるキリスト者の戦いだからです。

キリストに従うことに伴う一つの大きな要素でもあるからです。

エペソ書は、私たちの信仰がどなたによって意図されたものであり、意図して下さった神というお方が私たちに何をなさり、何を期待し、何とどう何で戦うべきなのかを確認する必要があつて、その必要を満たすかのように書かれています。

エペソ 1 章から 3 章までは、私たちが何を信じ、何を与えられ、その与えられたものによってどういう高貴な身分とされたのかという信仰の内容・教理について教えて下さいました。

そして、4 章から 6 章 9 節までは、その信じている内容が、私たちの生き様のどこにどう表れてしかるべきなのかという信仰の実践とその具体的な実践現場について教えて下さいました。

そして今、ここ 6 章 10 節からは、「その信仰の実践現場において信仰を実践する上で、必ずや戦いが伴うけれども、その戦う相手を間違っはいけないよ、戦う相手をしっかりと見据えることの出来る者として立てられていることに堅実に立ち続けなさい。戦う相手を間違わないことが、信仰を守り続ける上で必要不可欠な大事なことから。そして、その戦いに必要な道具を間違わずにしっかりと身につけなさい」と教えて下さいます。

即ち、靈的戦いです。

目に見える世界に覆い隠された、この目に見える世界の背後にある、または超越した本当の実質的な戦い、キリスト者にとって最も高く、最も深い戦いと  
そのための武装について教えて下さいます。

## Part One

先週まで見て来ました通り、私たちの戦う相手は、人ではありません。

でも、この世の中、人と競争し、人と争い、人と戦い、人と比べることをも  
って成り立っているかのように回っています。

勉強、スポーツ、経済、芸術、科学、音楽、政治、歴史、ファッション、お  
笑い、子育て、食べること、遊ぶこと、話すこと、運転すること、お話しする  
こと、経歴や経験、ありとあらゆる分野において、いや、人の生活圏すべてに  
おいて「そうだ」と言っても過言ではないでしょう。

その戦いにおいて勝利を味わうことが、私たちを幸福へと導いてくれると思  
わされているような世界かもしれませんが、「それは、私たちキリスト者の戦  
いではない」と、ピシッと教えて下さいます。

イエス様を信じる前までは、あたかも、「それこそが私たちの戦いだ」と仕  
向けられて来たことに気付き、そう仕向けている神に敵対する輩・悪魔の存在  
を知り、認め、分かり、見抜き、それに対して戦うことこそが、私たち人間の  
本質的な戦いであることに気付くこと。

これが、まことの主なる神に出会い、イエス・キリストを信じるということ  
でしょう。

聖書に記録されている通りです。

### ヨハネの福音書第一 3 : 8 (パウロ)

悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、  
神の御子（イエス）が現れました。

### ヘブル人への手紙 2 : 14 - 15 (パウロ)

（イエスは、）死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼ  
し、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するため  
でした。

イエス様の敵は、人ではありませんでした。

悪魔です。

悪魔が、主イエスの戦う相手でした。

だから、例えば、主イエスの前に罪を犯した弟子ペテロに向かって、「下が  
れ、ペテロ」とは仰らず、そのペテロの心を掌握し、ペテロを神ではない方へ  
と向かわせようとしている実質的な悪の根源サタンを見出されながら、ペテロ

に向かって、「下がれ、サタン。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」と、叱責されたのかもしれませんが。

もちろん、ペテロ自身に対しても、「ペテロよ。サタンに心奪われ、神の方を向いていないにもかかわらず、あたかも神の方を向いていると錯覚させられている偽りの正義感に気付きなさい」と叱咤激励を下さっているのは確かだと思いますが、それ以上に、真に戦うべき相手をお示し下さり、戦うべき相手を間違えてはいけないということをご自身の言葉をもって、はっきりと教えて下さっているように思えます。

それゆえに、エペソ書の著者使徒パウロ先生は、神を信じ、イエス・キリストを信じる者たちが、なおも、戦う相手を間違い、戦う相手を人とし、ましてや同じ神を信じている兄弟姉妹をも戦う相手にしてしまっていることに憂いを覚えながら、「キリストの体である教会として、戦う相手を間違えてはいけませんよ」と教えて下さいます。

私たち、聖霊によって霊の目を開かれたクリスチャンたちの戦う相手は、人ではありません。

悪魔です。

## Part Two

悪魔と言いますと、忘れられない出来事があります。

大学3年生の頃アメリカでクリスチャンになった時、通っていた教会の青年担当牧師だったポール・キム先生が、「ロシア・カザフスタンへの1ヶ月の短期宣教に一緒に行かないか」と誘って下さいました。

洗礼を受けてまだ半年も経っていない私を誘って下さったことに恐縮しましたが、「ポール先生が一緒ならば大丈夫だろう」と思い、結局ついて行くことになりました。

そして、出発する2ヶ月ほど前から、一緒にその短期宣教旅行に行く青年たちやポール先生と、祈りやバイブルスタディーをもって準備を始めました。

ある晩、一緒に行く青年たち皆で教会に集まって、徹夜祈祷会をすることになり、寝袋持って礼拝堂に集まって皆で祈り始めました。

すると、そのうちの一人の青年が、何か視線を感じたので、目を開けて説教壇の方に目を向けますと、その講壇のへりに、長い爪をもって足を引っかけて座り、大きな羽根と、大きな白目に米粒ほどの小さな黒目を鋭く光らせながら、全身黒い闇に包まれたような姿で、祈っている私たちのことを「食い尽くしてやろうか」というような殺気で睨んでいる何かが、そこにいました。

その青年は、直感的に、「サタンだ。悪霊だ」と分かったそうです。

そして、また目を閉じて神様に祈り始めました。

皆が祈り終わりますと、その青年が、祈っている私たちのことを睨んでいた

その悪魔のような存在について話してくれました。

そして皆で、「サタンは、私たちが、聖霊によって、父なる神、御子なるイエスに祈ることを嫌っているし、邪魔しようとしているし、イエス・キリストの福音を宣べ伝えることを忌み嫌っている。そういう輩こそが、私たちキリスト者の戦う相手だ」ということを分かち合い、また祈りました。

そうして、カザフスタンに行きました。

すると今度は、道端で、または賛美集会の中で、デーモンポゼスト悪霊憑きのような状態に陥ってしまった方々が出てくるような状況に遭遇しました。

物凄い力とどこから出てるのかわからないような野太い声を発しながら人を振り払おうとするので、皆で手分けして抑えて、ポール先生と一緒に、その方に向かって主イエス様の御名と血潮を口にしながら祈り始めました。

その祈られている方も、祈っている牧師や青年たちも汗だくになりながら一時間ほど祈りますと、だんだんと落ち着きを取り戻し始めて、顔色がさっきとは打って変わってすっきりしてこられ、ご自分に何が起こったのか全然分かっておられないようでした。

その後、その方々からお話を伺いますと、「家族のことで悩んでいて神様に不平の思いを抱いていた」とか、「以前は毎週礼拝に来ていたけれども、ここ最近はお酒に溺れてしまい、礼拝に来なくなっていたんだ」というようなことを話して下さいました。

「ああ、サタンは、人の霊的弱みに付け込んで攻撃してくるのか！」ということを知りました。

信仰を与えられてまだ一年も経たないうちに、そのような神に敵対する勢力、悪魔とか、サタンとか言われる存在を可視的に見せられてしまったので、もう私の中で、イエス・キリストが神であられること、そのことを真っ向から妨げ否定しようとする悪魔の存在と、その存在がこの世の流れを作り、神に対する不従順の心を人に抱かせ続けようとしているということを認めないことが出来なくなりました。

その時から、聖書の中に出てくる悪魔や悪霊憑きの話が、我がことのようにリアルに迫って来るようになりました。

そして、「もし、神様が僕をお用い下さるならば、目に見える空しく朽ち果てていく世界に空しく生きる代わりに、牧師という、目にはまだ見えないけれども永遠に確かな神に国とイエス・キリストを宣べ伝えながら、真に生きる者として生きたいという第二コリント4：18

#### **コリント人への手紙第二4：18（パウロ）**

という御言葉がリアルに迫って来るような思いが与えられて、日本に帰ってきて、今に至っております。

今になってみますと、疑い深く、目で見て、手で触れてみないと信じず、ともすると神から離れていくことばかりに考えが及んでしまうような信仰の弱さを体質的に持ち合わせているので、もう絶対に、聖書に書かれている神の啓示の内容を、神の存在を、イエス様というお方を拒絶出来ないように、目で見て、耳で聞いて、手で触れてという五感で分かるように、悪魔の存在を分からせて下さったのかなあと思っております。

### Part Three

こんな風に、目に見える形で、悪霊やサタンがうごめいているのが表れるならばある意味分かりやすいですし、その対処にそんなに困ることはないかもしれません。

「主イエス・キリストの名によって、サタンよ、退け！ お前の居場所は燃えるゲヘナだ！」と命じて、祈ればいいだけのことですから。

恐れる必要なんか、全くありません。

でも、ほとんどの場合、C.S.ルイスが書いた「悪魔の手紙」や「ナルニア国物語」などにもありますように、人という存在の影に隠れて、自分の存在を明かすこともなく、バレないように背後で人の心をコントロールし、狡猾に立ち回りながら、時には知恵深いようなふりをし、時にはユーモアにあふれ、余裕や繁栄があるかのように見せながら、この世の流れや空気感を作り出し、神を忘れた世界を張りぼてのように建て上げようと、しゃかりきだけでも静かにうごめいていますので、罪人である私たち人間が、その存在を私たちの能力や知恵などでの的確に把握することは不可能でしょう。

神の助け、聖霊なる神様のとりなしによって照らし出されない限り、その本当に戦う相手は見えません。

今早天祈祷会で、ゼカリヤ書を学んでおりますが、ゼカリヤ書4：6の御言葉、

**ゼカリヤ書4：6（パワポ）**

**権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって**

という主のお言葉通りです。

見えて来ないから、人影に隠れているから、いつまで経っても、私たち罪人は、人と戦うことをもって戦いとしてしまいます。

でも、聖霊に導かれた使徒パウロ先生は、「そういう無毛な戦いを止め、無毛な戦いから贖い出された者として、しっかり戦うべき相手を見据え続けながら戦うよう」教えて下さいます。

そして、そのために必要なのが、武装です。

「ただでさえ、放っておいたら、直ぐに戦う相手を見定めることが不明瞭になってしまう罪が私たちのうちに住んでいるために、戦う相手をしっかりと見定め、まともな戦いをするために武装しなければならない」と教えて下さいます。

攻撃された時に、ブレない、神から与えられた霊的視野を持ち続け、攻撃する時には、的確にその攻撃すべき対象に向かって攻撃出来るよう神が賜った武器を身に着け続けるよう諭して下さいます。

この世の中、戦う相手を間違っているから、いつまでも戦争がなくならず、私たち一人一人を含めて、いざこざがならないわけです。

具体的な武装の内容については、次回以降に学んでいきたいと思います、端的に言いますと、聖書の御言葉と聖書の御言葉に沿った祈りです。

聖書の御言葉によって祈り、聖書の御言葉をもって私という人を練り、聖書の御言葉に沿った神観、聖書の御言葉が教えてくれるこの世界の闇と実体、聖書の御言葉に神の声を聞き続け、ひざまずき、心砕き、悔い改めながら、そして、悔い改めから来る神の子としての遜った堂々さをもって愛すること、赦すこと、人を責める代わりにおおってあげること、これが、血肉ではない、悪魔に対する戦いとなることでしょう。

### Conclusion

最後に、イエス様の御言葉と、イエス様に「下がれ、サタン」と愛の叱咤激励を受けた使徒ペテロの言葉を読んで終えたいと思います。

ヨハネの福音書 13 : 34 - 35 (パウロ)

ヨハネの福音書 15 : 12, 17 (パウロ)

ペテロの手紙第一 4 : 8 (パウロ)

ヨハネの福音書 20 : 23 (パウロ)

なんで生きているのか、なんで生かされているのか、何のためのいのちなのか、私への神の期待は何なのかを間違わないようにと教えて下さっているようです。

人を戦う相手とみなす生き方から、人を愛する対象として生きる生き方をもって、そうさせようとしないように全力で突っかかってくる悪魔に対抗したいと願います。

愛することのために祈り、愛することのために御言葉を食し、愛することのために礼拝する、私たちキリストのしもべ・弟子でありたいと願います。

お祈りいたします。

祝福：終わりに言います。主にあって、その大能の力に強められなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、悪魔、もろもろの悪霊に対するものだからです。